

令和5年度全国学力・学習状況調査の結果の分析

逗子市立久木小学校

調査結果の概要及び教科の課題等 (○良かった点や特徴ある点等 ●課題や改善点等)

【 国語 】

《言葉の特徴や使い方に関する事項》

○県の平均を7%上回っており、力が付いていると言える。

●平均して2.8%の無答率があった。特に顕著なのは、日常よく使われる敬語の問題で8パーセントの無答率であった。

《情報の扱い方に関する事項》

○県の平均を4.5%上回っており、力がついていると言える。

《話すこと・聞くこと》

○県の平均を11.4%以上上回っており、十分力がついていると言える。

●「相手の考えと比較しながら自分の考えをまとめる」という問いに10%の無回答が見られる。

《書くこと》

○県の平均を2.1%上回っている。

《読むこと》

○県の平均を3.4%上回っている。

●読んで理解したことについて自分の考えをまとめる問いにのみ7.1%の無回答が見られる。

《児童質問紙 国語に関する質問》

○93.6%の児童が国語の大切さを感じ、91.7%の児童が内容がよくわかると回答しており、92.7%の児童が社会に出てから役立つことを認識しているが、好きだと答えた児童は65%にとどまっている。

●「書いた文章の感想や意見を友達と伝え合い、自分の文章の良いところを見つけているか」という問いの回答は、県の平均より5.2%低くなっている。

【 算数 】

《数と計算》

○県の平均を9.8%上回っている。無回答率は0.9%ある。

《図形》

○県の平均を8.5%上回っている。無回答率は、図形の性質についての理解を問う問題に1.8~2.7%みられる。

《変化と関係》

○県の平均を8.3%上回っている。どの問題でも0.9%の無答率が見られる。

《データの活用》

○県の平均を3%上回っている。表から必要な数や条件に合う数を正しく読み取ることができる。

●複数のグラフを読み取り、違いなどを言葉と数を用いて記述する問題の無答率が11.6%と高かった。

《児童質問紙 算数に関する質問》

○90.5%の児童が算数の大切さを感じ、90%の児童が内容がよくわかると回答しており、95.4%の児童が社会に出てから役立つことを認識しており、県の平均を上回っている。

●好きだと答えた児童は68.8%にとどまっている。

◎児童質問紙の結果 特徴的なことや課題と考えられること等

- 「朝食を毎日食べていますか」「毎日、同じくらいの時間に寝ていますか」「毎日、同じくらいの時間に起きていますか」などに「当てはまる」とした回答は、県の平均より約8.6%上回っており、家庭での基本的な生活習慣が出来ていると言える。
- 「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいあるか」の質問では、「よくある」とする回答が県の平均を9.8%上回り、「友だち関係に満足しているか」の質問では「当てはまる」とする回答が県の平均を4.9%上回っている。このことから、多くの児童は充実した生活を送っているということが考えられる。
- 「学習した内容について、わかった点やよくわからなかった点を見直し、次の学習につなげることができているか」「総合的な時間の学習では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいるか」の質問に「当てはまる」とした児童は県の平均をそれぞれ10.6%、10%上回っている。これは校内研究テーマ「自ら問い続け、探究し続ける学びの創造」に取り組んできた成果と言える。
- 「人が困っている時は進んで助けているか」「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思うか」の質問に「当てはまる」とした児童は、県の平均をそれぞれ6.7%、6.1%、下まわっている。人助けやいじめに対する道徳心が育っていないということは考えにくいので、「時と場合によって違う」と捉えているのではないかと憶測する。
- 「学校へ行くのは楽しいか」の質問の「当てはまる」とした児童は4.2%で、県の平均を下回っている。一日のほとんどの時間を過ごす学校が楽しいと思うことができないのは残念なことだ。児童の個性に合った学校生活や学び方を、学校は考えていく必要がある。

◎調査の結果を受けて、今後の指導改善に向けて学校として取り組むこと

- 児童が自ら目標を立てて学習を進め、対話を通じて学習を深め、自分の考えを構築していく「主体的・対話的な深い学び」になるような授業づくりを行っていく。その際、自分の考えなどを書く活動に重点を置いて行っていきたい。また、主体的・対話的な授業を行うことができるような、学級経営、児童指導を行い、児童同士のつながりをつくっていきたい。
- 国語や算数の問題に関して、概ね県の平均より高い正答率の中で、無答率が数パーセントみられる。学習に困難さを感じている児童への支援方法を考え、即座に実行していきたい。
- PCを使った授業の取り組みをさらに進めていきたい。
- 学校生活全般における道徳教育の強化をめざし、児童自ら課題意識をもち、それについて考えるよう、学級会や委員会活動、代表委員会などを活用していきたい。また、日ごろの先生方のかかわり方、雰囲気など、児童との信頼関係をこれまで以上に作っていくと共に、校内の児童のサポート体制を見直し、整えていく。